



ごあいさつ

嘉手納町教育委員会 教育長 真喜屋 清

嘉手納町は、沖縄本島中部の琉球石灰岩層を東西に流れる比謝川の南岸に広がり、その流域・海岸の貝塚群から推して、数千年以上の有史以前から人々が住みついたと思われます。琉球国最古の文献「おもろさうし」には屋良・さす(嘉手納)として記載され、琉球王朝の北谷間切時代を経て明治末に北谷村字嘉手納となり、明治以降県都那覇から軽便鉄道が敷設、嘉手納警察署、沖縄製糖工場、県立農林学校、同第二中学校が設立され、中頭地区最大の経済・文化・教育の中心地として発展しました。第2次世界大戦で1945(昭和20)年に米軍最初の上陸地点となって町は壊滅、極東最大の嘉手納基地によって母村と分断され嘉手納村として独立、30年後の1976(昭和51)年から町制に移行しました。戦闘機の墜落、爆音、居住地の狭隘化などの基地被害に苛まれながら、宮城篤実町長の優れたリーダーシップの下、町始まって以来の壮大な総合タウンセンターが近々オープンします。

わが町には教育施設として、文部科学省所管の屋良幼稚園・小学校、嘉手納幼稚園・小学校と嘉手納中学校の5施設と、学校教育法にとらわれず国際化・高度情報化に対応し外国語やコンピューター技術習得を目指す嘉手納町立外語塾があります。教育委員会では、1604年に中国福建省からわが国に初めて甘藷をもたらし、度重なる天災や戦争の飢饉から国民を救った本町の先人・野国總管の遺勳に因み、①**進取の気象**＜進取の気象に富み、知力・学力の向上を目指す心豊かなたくましい人材の育成＞、②**国際性**＜郷土の自然・歴史・文化に対する誇りと国際理解を持ち、平和と活力ある社会の形成者となる人材の育成＞、③**社会貢献**＜博愛精神に富み、社会に奉仕・貢献できる人間味溢れる人材の育成＞を嘉手納町教育の3理念に掲げて、青少年の教育を進めています。

この3理念に基づき、(1)教師と生徒が“教える喜び”と“わかる喜び”を共有し、知力・学力の向上によって人間力を高める教育、(2)郷土の自然・歴史・文化に誇りと自信を持ち、郷土愛に根ざしたグローバルな異文化理解を醸成する教育、(3)健康で自他の生命を重んじ、人間性豊かで地域・国・国際社会に貢献できる博愛心・行動力を練成する教育、そのための**みのりある教育**を目指しております。

このみのりある教育の成果をさらに深めるために、他県や国外との教育・文化交流を推進しつつあり、鳥取県大山町との小学生交流は既に20周年を迎え、また甘藷伝来のルーツ・福建省惠安県との中学生交流が新たに始まりました。郷土愛を深め心豊かな人間力をさらに生涯学習へとつなげるために、タウンセンター内開館予定の町立図書館を充実し、特に目玉となる「甘藷伝来・野國總管コーナー」所蔵の書籍・デジタル資料を大量に収集し、閲覧に備えてあります。

本町の8割強を占める米軍基地は、居住地の狭小化と爆音による悪影響だけでなく、在日米軍再編のための垂直離着陸機オスプレイ・防空地对空誘導弾パトリオット配備が町民に新たな不安を与えています。しかし、逆転の発想で「耕す土地がなければ頭を耕せ！」との町長のスローガンのもと、次代を担う子供たちの教育、特に人命を重んじ他人を思いやる心の教育を通して、逆境のこの町を、戦争を忌避し平和を希求する平和教育の発信“基地”にしたいものです。